

** お白石持ち行事キーワード **

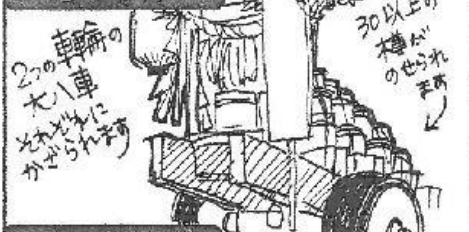
お白石

奉獻するお白石は、宮川流域で拾います。お白石持ち行事で両宮の神域まで運び入れた後、それぞれ白い布に白石を包み持ち、新しい御正殿の御敷地に敷き詰めます。



このお白石が
白布で
御正殿へ!!

奉曳車



わん鳴り

奉獻車の木製の車輪、車輪が回る摩擦で「フーン」となる独特の音のこと。各団は、この音色を競います。



練り

奉獻車は2本の綱で曳きますが、途中、綱を勢いをつけて互いにぶつけ合い、押し合いをすることをいいます。時には、2本の綱の間に木遣り子を挟み、高く持ち上げることも!!

川ぞり



法螺貝

川曳きでは、フン鳴りではなく、ホラ貝が響きます。川曳きにはかかせないアイテムです。



手踊り

伊勢音頭の他に、地元伝統の踊りを披露したり、振り付けにアレンジをする奉獻団も。衣装も各団さまざまで、女性陣の華やかさが際立ちます!



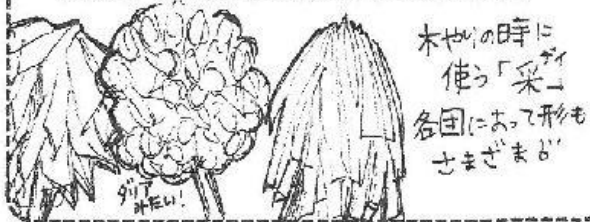
木遣り

もともと「大きな岩や木材を大人数でかけ声をかけながら引くこと」という意味だそうです。

大人数で力を合わせて行う運搬には、指揮者の号令が必要になります。この号令の役目が「木遣り歌」になります。

木遣りは、神社や御宮を建て替える時に使われてきたことで、おめでたい歌詞もあり、伊勢では結婚式などでも披露されますね。

木遣り歌は各団によって独特の歌詞があり、ひとつの団でも、浜参宮・お木曳き・お白石・川曳き・陸曳きなど使い分けて歌います。



木やの時に使う「采」各国によって形もさまざま!

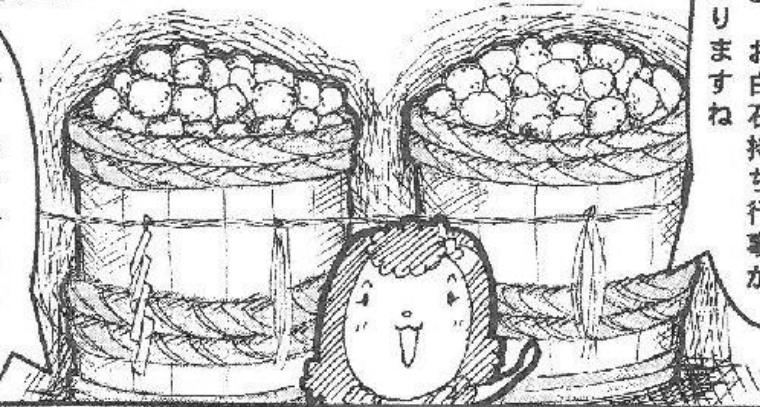
昔、遷宮で使う木材や白石を人力のみで運搬するのはとても大変な作業でした。伊勢の人々は「どうせやるなら楽しくやることお祭りまで高めてきました。八年間かけて、三十以上も行う遷宮奉獻の中で、一役が参加できるのはお木曳とお白石だけです。

神の都に生れたおかげ、御石曳の身、ありがたや

お白くんの「いせ豆知識」お白石持ち行事特集★その1

四斗樽に入れたお白石

そこで、今回はお白石持ち行事その1をおおくりします!



みなさん、こんにちは。いよいよ、お白石持ち行事が始まりますね

お白石持ち行事とは?

新しい御正殿の御敷地に旧神領民たちが白い敷石を奉獻する行事。七月二十六日から七十七の奉獻団と特別神領民で行われます。

7/26~9/10 金土日お休み

伊勢市を中心とする、江戸時代に神宮の領地だった町に住む人のことよ。町別、地域別に結成されたお白石の奉獻団は、「光の街奉獻団」が新しく加わって、七十七になったの。

「旧神領民」ってなあに?



川曳き陸曳きもあるよー

スゴイ数字

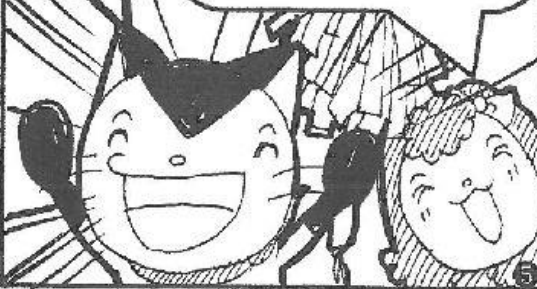
ええ!?

あい言葉は... エンヤー!

日本全国が注目する式年遷宮もいよいよ美盛に近付いているわ。お白石持ち行事は新しい御正殿を見ることもできる一からの機会だもの!

特別神領民は、全国の方が集まって特別に結成された「旧神領民」以外の方々の奉獻団のことなの。木遣りなどは伊勢の方々のボランティアで行われるのよ。今回、特別神領民は約7万人、ボランティアは二十日間で、べー万人にもなるの。

日本中の奉獻団のちやてんにおつかいします。



おこんにちは 高須新聞店で

いつもご愛読ありがとうございます「お白石持ち行事」まであと1ヶ月です!

各奉獻団の町内試し曳きが終わると、いよいよ7月26日、宇治奉獻団の川曳きからお白石持ち行事が始まります。

伊勢周辺には「祝お白石持」のぼりが立ち、本屋には遷宮関連のコーナーが登場したり、「お白石」を模したお菓子が発売されたり、もう伊勢全体が大盛り上がりですね。

この勢いによって、いせまめ通信もがんばって参ります(*_*)

*高須新聞店スタッフブログでは、「いせまめ通信番外編」も!携帯からも見れます!



次号は7月28日(日)発行予定。おたのしみに

高須新聞店通信 お伊勢さんを知ろう企画

いせまめ通信

発行: 中日新聞 伊勢市南郡店 高須新聞店①

〒516-0014 伊勢市南郡町乙422-1 ☎ 0596-24-1720 fax0596-24-1728

毎月25日頃発行 第12号 平成25年6月23日